

分野 4 生涯学習

1 目指す方向性（「宇治市第 5 次総合計画」基本構想（平成 23～34 年度）より）

大分類 4 生きる力を育む教育の充実と生涯学習の推進のまち

生涯学習では、基本的人権の尊重を基盤に、生涯にわたる学習機会の確保や、健康な身体を維持し充実した生活を送るためのスポーツ・レクリエーション活動の機会の拡充を図り、市民の自主的、自発的な文化・学習・スポーツ活動を推進する。

また、学校教育と生涯学習の連携を通じて、家庭や地域の教育力の向上を図り、地域のコミュニティ活動の活性化や、心の豊かさが実感できる「ふるさと宇治」意識の醸成を図る。

中分類 2 生涯学習の充実

科学・情報技術の高度化や少子高齢化の進展により、市民のライフスタイルや価値観は多様化しており、新たな課題に対応した学習や実践が求められている。

このような変化に対応するため、「千年の歴史を踏まえ、新しい文化を創造する生涯学習都市づくり」を目標に、市民一人ひとりがライフステージに応じて自主的、自発的に学習することができるよう、総合的な学習支援を推進し、豊かな社会づくりを目指す。

高齢者をはじめ、様々な世代の市民の自発的な活動を促進するため、各種事業の参加型から参画型への転換を図るとともに、学習の成果を活かし、指導者・ボランティア等として活動できるよう支援する。また、図書館等を中心として、学習情報の収集と情報発信の充実に努めるとともに、施設のバリアフリー化等に取り組む。

また、市民が心身両面にわたり健全な生活を送るため、各種スポーツ・レクリエーション施設の有効活用を図るとともに、市民が自発的、継続的に様々なスポーツに親しめるよう、地域におけるスポーツ活動を推進する。

歴史資料の充実・普及として、本市の美しい自然景観、優れた地域文化や伝統を次代に受け継いでいくため、歴史資料や文化財の保護・保存に努める。また、展覧会の開催や源氏物語ミュージアム等の活用を図り、宇治の歴史・文化を広く世界に発信する。

総合計画における目標値・指標値	現状 (平成 21 年度)	第 1 期 (平成 25 年度)	将来展望	参考 (平成 23 年度)
総合野外活動センターの来場者数	97,857 人	117,000 人	増加	105,622 人
生涯学習センター講座等延べ参加者数	13,662 人	14,000 人	増加	11,931 人
人材バンクの登録件数	127 件	増加	増加	125 件
図書館の年間総貸出冊数	930,971 冊	979,000 冊	増加	887,729 冊
市の主催等による各種スポーツ大会・教室・ひろば等参加者数	34,000 人	38,000 人	増加	32,010 人
成人で週 1 回以上スポーツをする人の割合	41.7% ⁽¹⁾	増加	50% ⁽²⁾	- ⁽³⁾
歴史資料館収蔵資料目録の刊行数	11 集	15 集	映像と画像を組み合わせたデータの集成と公開(研究中)	14 集
源氏物語ミュージアム企画展示数	企画展 5 回	企画展 6 回	特別企画展の開催(5 年毎)	企画展 5 回
源氏物語ミュージアム講座開設数	20 講座	25 講座	30 講座	24 講座

1 平成 18 年度アンケート実施

2 国のスポーツ振興基本計画の目標値

3 アンケート未実施

教育委員会の方針（平成 24 年度）（「平成 24 年度 宇治市教育の重点」から）

「宇治市生涯学習推進プラン」を指針とした生涯学習施策の展開や、新たな推進組織の整備など、市民の自主的・自発的な学習を支援する体制や学習環境の整備を図る。また、生涯学習を支える社会教育活動の振興を図るため、指導者の養成や関係団体・組織への支援を進める。

さらに、社会教育活動・生涯学習活動によって得られた学習成果を活用して、市民が積極的に社会に参画することができる「生涯学習社会」の実現に努める。

2 市の概況

(「平成 24 年度 宇治市の教育」ほか)

本市では、平成 8 年度に「宇治市生涯学習基本計画」を策定し、市民一人ひとりが「だれでもがいつでも、どこでも」学べる、活力とうるおいのあるまちづくりを目指してきた。

平成 15 年度には、「宇治市生涯学習基本計画」を基礎とした「宇治市生涯学習推進プラン(宇治まなび AIUEO プラン)」を策定し、市民の各分野にわたる学習を支援して、一人ひとりの生活の充実と、学びの成果を生かせるまちづくり、市民との協働によるまちづくりを進めるため、生涯学習施策を体系的に展開する指針を示した。

加えて、「宇治市子どもの読書活動推進計画(第二次推進計画)」(平成 23 年度策定)や「宇治市スポーツ振興計画(ASE プラン)」(平成 20 年度策定)など、個別分野の計画を設けてその推進に取り組んでいるところである。

市内の学習拠点としては、生涯学習センター、公民館 5 か所、図書館 3 か所、青少年センター 3 か所、歴史資料館、源氏物語ミュージアム、青少年指導センター、宇治市総合野外活動センター(アクトパル宇治)がある。

なお、現行の「宇治市生涯学習推進プラン(宇治まなび AIUEO プラン)」の施策体系は以下のとおりである。以降に記載する「市の取組の現状、課題」は、下記の体系で整理した。

A. 施設利用プラン	A-1：生涯学習センターの整備と有効活用 A-2：生涯学習関連施設の整備と有効利用 A-3：学校教育機能・施設の有効利用 A-4：身近で親しみやすい施設づくり(各施設共通)
I. 情報プラン	I-1：情報収集システムの構築 I-2：情報発信システムの構築
U. 事業プラン	U-1：市民の自主的な取組の促進 U-2：幅広い層の学習活動への参加促進 U-3：総合的な事業の展開 U-4：豊かな暮らしのための学習活動の推進
E. 人材養成プラン	E-1. 学びを支える人づくりと活動支援 E-2：人材活用システムの構築
O. 組織プラン	O-1：生涯学習関連組織の連携を図るための組織の整備 O-2：行政の推進組織の整備

3-1 「A.施設利用プラン」の現状、課題

(「平成 24 年度 宇治市の教育」「平成 23 年度 事務事業点検評価」から)

【取組の概況】

市内の学習拠点である生涯学習センターにおいては、学習相談の適宜実施と学習情報の提供、ミーティングスペースの開放による交流の場の充実、情報ライブラリの拡充などを行っている。

各公共施設では、情報交流ボックスや展示スペースを提供するなど、地域性や市民ニーズを踏まえた施設づくりに努めている。また、公民館のバリアフリー化や職員研修などを通して、身近で親しみやすい施設づくりを進めている。

学校については、市民にとって最も身近な体育施設として、また、地域の人々の学習の場でもあるという観点に立ち、学校を地域に開放している。学校運営への地域教育力の活用としては、学校を拠点とした新たな事業（放課後子ども教室、子どもの居場所づくり支援事業）や、人材バンクの配布による地域人材情報の提供等を行っている。

図書館の蔵書数は 30 万冊を維持、貸出冊数はやや減少傾向にあるが、「予約図書配本サービス」の利用者は年々増えている。また、テーマを決めた図書の展示やおはなし会などの各種イベント、地域や学校への図書貸出などを通じて、読書や図書館に親しむ機会を提供している。

【今後の検討課題】

公民館活動を支援するため、公民館の修繕・整備に今後も計画的に取り組んでいく。また、生涯学習センターが情報拠点となり、市内の活動情報を収集して、ボランティアや生涯学習及び地域活動に取り組む人に情報を提供する機能を拡充する。図書館資料の保管場所の確保については検討が必要である。また、学校教育が進める小中一貫教育とのより一層の連携に努める。

【平成 23 年度事業の評価結果】注：主な事業のみ。全事業評価は実施していない。事業名に課名が入っていないものは生涯学習課の事業。

事業名	現状・効果	課題
生涯学習センターの整備と有効活用		
生涯学習推進 (学習情報の収集と提供)	<p>学習情報の提供のため、センター事業についてはホームページ等で発信し、さらにセンター1階に市民の事業や市外の事業についてチラシ等を多数配架した。</p> <p>また、視聴覚ライブラリーで現在 1,500 本以上のソフトを保有し、チラシやポスター、ホームページで広報に努めた。</p> <p>平成 23 年度は映像ソフト(DVD)を新たに 6 組購入し教材の充実を図った。</p> <p>センターで把握している範囲の市民活動・学習情報の提供により、市民の生涯学習や地域活動を促進することができた。</p>	<p>視聴覚ライブラリーのソフトの更新(DVD化など)がなかなか進んでいない。今後も継続して教材を購入し、更新を図っていく。</p> <p>生涯学習情報の収集と提供については、市内の活動情報を収集し、ボランティアや生涯学習及び地域活動に取り組む人に提供するようにしていく必要</p>

事業名	現状・効果	課題
		がある。
生涯学習関連施設の整備と有効利用		
以下の生涯学習関連施設を運営し、有効利用に努めている。		
● 総合野外活動センター	● 図書館（3館）	
● 公民館（5館）	● 歴史資料館	
● 青少年センター（3館、43～44ページ参照）	● 源氏物語ミュージアム	
学校教育機能・施設の有効利用		
人材バンク事業	62ページ参照	
放課後子ども教室支援事業	<p>遊びや学びの場を提供する地域活動に対して、備品等の購入・貸出や、学習アドバイザー及び安全管理員を派遣し、子どもの放課後の居場所の確保に努めた。</p> <p>平成23年度から、新たに北檜島小学校が実施し、異年齢の交流や自主的な学習の支援を行って子どもの健全育成を図った。</p> <p>北檜つながりプロジェクト(北檜島小学校) 平成23年7月～平成24年2月(年12回)</p> <p>宇治子どもの居場所づくり(宇治小学校) 平成23年5月～平成24年3月(年44回)</p> <p>実施校が増え、子どもの居場所と学びの場づくりを推進することができた。</p>	今後も地域ボランティアが継続して活動できるような支援が必要である。
子どもの居場所づくり支援事業(学校)	<p>土曜日の午前中に子どもの居場所づくりを目指して、遊びの場を提供する地域活動を、青少協や育友会といった地域の団体が運営主体となって行っている。23年度は市内15小学校区で実施し、小学校の体育館やグラウンドを会場としている。</p> <p>「子どもの居場所づくり支援事業(公民館)」については58ページ参照</p>	運営にかかわる人材の確保に悩んでいるという団体が多く、行政としての支援方法を検討したい。
身近で親しみやすい施設づくり(各施設共通)		
総合野外活動センター 長期修繕計画策定	平成22年度に策定した長期修繕計画に基づいて、施設整備を行っている。適切な工事の実施により、利用者の安心・安全の確保や利便性を高めることができた。	引き続き、安全に施設利用をしてもらうため、修繕・整備に取り組んでいく必要がある。
学校体育施設開放事業	市内の小中学校の体育館や運動場などの体育施設を地域でのスポーツ活動の場として開放を行っている。平成23年度では、約	各体育施設の稼働率が高く新規の団体が利用しにくい状況となってい

事業名	現状・効果	課題
	<p>420 団体が延べ 19,706 回の利用があり、地域・生涯スポーツの活動を推進することができた。</p>	<p>る。また、近隣住民より騒音・砂埃・ボール飛び出し等の苦情があり、利用団体の使用方法に工夫が必要である。</p>
<p>公民館修繕事業</p>	<p>各公民館において、バリアフリー化などの施設整備を行った。</p> <p>適切な工事の実施により、利用者の安心・安全の確保や利便性を高めることができた。</p>	<p>公民館利用者の安全な活動等を支援していくため、公民館の修繕、整備に取り組んでいく必要がある。</p>

3-2 「1.情報プラン」の現状、課題

(「平成 24 年度 宇治市の教育」「平成 23 年度 事務事業点検評価」から)

【取組の概況】

ホームページや市政だより、各施設の発行物だけでなく、各施設における情報交流ボックスや展示スペースの提供、啓発ビデオ・DVD の貸出、カレンダーの作成など、媒体ごとの特性を生かして多様なメディアにより学習情報提供の充実を図っている。生涯学習課が発行する「生涯学習情報 UJI」では、市民が実施する事業等を広報するスペースを設け、市民の学習活動を支援している。

生涯学習に関する情報のデータベース化に向けては、人材バンクや地域社会の人材活用システムの設置するほか、窓口やホームページにて各種サークル情報を公開している。

【今後の検討課題】

情報収集の課題としては、人材バンクの利用実態を把握して、さらなる充実に努めるとともに、学校教育への効果的な情報提供を図ることが挙げられる。

情報発信の課題としては、ボランティアや生涯学習及び地域活動に取り組む人・団体に有効な情報をタイムリーに提供できる方策、事業への参加の少ない青少年や仕事を持つ世代等への情報提供方法の見直しが必要である。その方法として I C T の活用も視野に入れる。

【平成 23 年度事業の評価結果】 注：主な事業のみ。全事業評価は実施していない。

事業名	現状・効果	課題
情報収集システムの構築（地域人材情報の整備と活用）		
人材バンク事業	62 ページ参照	
情報発信システムの構築		
スポーツ関係団体の情報発信への支援	市民の情報発信に役立てるため、市スポーツ推進委員協議会が発行する広報誌や各種大会のチラシを公共施設に配架している。また、市・市教委や各競技団体の各種大会や教室の情報を掲載したカレンダーを年 3 回発行するなど、地域で活動する団体の情報を集約して公開することで、市民にスポーツの機会を提供している。	現在スポーツを実施していない方がスポーツを始める契機となる情報発信の方法の検討が必要である。
生涯学習推進 (学習情報の収集と提供)	51 ページ参照	
生涯学習センター講座等開催(学習情報誌の発行)	生涯学習情報誌を市民スタッフと共に編集し、年 4 回計 10,000 部発行、ホームページにも掲載した。	青少年や仕事を持つ世代等の事業への参加を促進するよう、情報提供に努める。
源氏物語ミュージアム 広報活動	旅行情報誌等、計 7 誌に当館の広告を掲載した。広告には観覧料の割引をつけ、積極的	今後も引き続き、入館者数の増加を図るために、情

事業名	現状・効果	課題
【源氏物語ミュージアム】	<p>に周知・PRを図っている。</p> <p>平成23年度予算で当館が広告を掲載した情報誌等を提示し割引を受けた方は、1,587人である。</p> <p>「源氏物語のまちづくり」をすすめる本市を、市内はもとより全国的にアピールしていくことは重要な要素であり、その中核施設として、より多くの人に源氏物語ミュージアムを知ってもらい入館へのきっかけとなった。</p>	<p>報誌への広告掲載だけでなく、取材記事と一体となった掲載による広報活動を続けていきたい。</p> <p>また、発行部数だけでなく、実際の販売部数等も調査し、より効果的な情報誌を選定していくとともに、新たな広告媒体の利用・検討もすすめていきたい。</p> <p>なお、平等院や宇治上神社に比べると当館の認知度はいまだ低く、本事業でより効果的で積極的な周知・PR活動をすすめ、より多くの方にミュージアムを知っていただく「きっかけ」を提供していきたい。</p>

3-3 「U.事業プラン」の現状、課題

(「平成 24 年度 宇治市の教育」「平成 23 年度 事務事業点検評価」から)

【取組の概況】

市民の主体的な学習活動の推進に向けて、市民の企画運営による各種講座・教室等の実施や自主事業実施への支援、NPO・企業との連携した事業の実施に取り組んでいる。

若年層・障害者・子育て世代など、幅広い層を含めた学習活動への参加促進に向けて、青少年や障害者の社会体験・文化・スポーツ活動への支援や、子育て体験学習等の体験・参加型学習機会の提供、多様な学習ニーズに対応した事業の実施に取り組んでいる。

異種組織・異世代の交流を生み出す取組として、公民館を中心とした地域における学習交流事業や子どもの居場所づくり支援事業、企業との協働企画による事業、宇治の文化・資源を生かした「総合的な学習」支援事業等を実施している。

幅広い学習活動や地域特性を生かした学習活動の推進としては、家庭教育や青少年健全育成活動、高齢社会に対応する学習プログラム、現代社会の諸問題（男女共同参画社会、国際理解、環境保全、情報化、人権・同和問題等、安心・安全など）、キャリアアップ（障害者自立支援、職業能力向上など）、健康、文化・芸術活動、宇治の歴史・文化を生かした学習などに取り組んでいる。

また、スポーツ・レクリエーション活動の支援としては、宇治市体育協会や宇治市体育振興会連合会に加入される団体等の自主的な取り組みを支援するとともに、協働で各種大会を実施している。

まちづくりにつながる学習活動の支援として、まちづくりに関する習機会の提供や、学習者の組織化支援・市民の市政参画促進、住民自治に関する学習機会の提供を実施している。

なお、事業評価については、平成 23 年度より本市決算成果説明書において自己評価を実施している。教育委員会内でも毎年事業ごとに評価を行い、取りまとめて外部の専門家の評価を受けている。また、各課で実施している生涯学習関連事業調査を実施して、本プランの進捗状況を調査している。

【今後の検討課題】

講座・教室の受講から地域活動やボランティア活動等の市民の主体的な取組の実践につながるよう、単に知識・技術を身につけるだけでなく、学習成果を活用した実践やまちづくりにつながる仕組みの強化が課題となる。

事業名	現状・効果	課題
市民の自主的な取組の促進		
生涯学習センター講座等開催（うじ市民活動サポート事業）	市民の学びや活動の成果を、新しい地域づくりに生かすために、市民が企画・運営する事業について、広報や会場提供などで支援、協力している。本事業は平成 17 年度から実施しており、採択事業を実施する中で、自信を付け、自主活動に取り組む市民グループが育成されている。平成 23 年度は 13 件の申請のうち 12 件を採択しており、初めて事業実施する団体も含め、様々な分野の企画事業に幅広い世代の参加があった。	新しく企画実施する団体を増やすよう、情報発信と団体育成に努める。
市民まなびの集い（宇治まなびんぐ）	平成 24 年 3 月に生涯学習センター全館を使用して、「つながれ ひろがれ まなびのわ」をテーマに参加体験型の出展に限定して開催した。45 団体・個人が出展、出展者・来場者合わせて、延べ 1,500 人の参加があった。平成 23 年度で 19 回目を迎え、生涯学習活動に取り組む人の成果発表及び市民間の交流、また、これから何かを始めたい人のきっかけづくりの場として定着している。 今回は東日本大震災から 1 年後の 3 月 11 日が実施日だったため、実行委員会企画として震災関連のコーナーを設け、ボランティアに何度も行った人や避難して来た人から話を聞く等、身近に感じる機会となった。 また、市民・団体間の相互交流を深めること、市民公募の実行委員が主体的に準備や当日の運営を行い、市民主導の事業として開催することができた。	若年層の出展者や実行委員は、仕事や家庭の事情等により継続した参加が難しい。 新たな参加者や若年層の参入を図るため、大学生や生涯学習センターの養成・支援講座の受講者、ボランティア登録者等に向けて、情報を発信して参加を促したい。
幅広い層の学習活動への参加促進		
障害者教室開催	障害の種別に応じた講座を開催して、延べ 524 人が参加した。 障害者団体やボランティアと連携した教室の開催により、障害者の学習機会の提供と仲間づくりを促進できた。	参加人数が減少傾向にある。新たな参加者を増やすために、事業のあり方や運営方法を検討し、事業のさらなる充実に向け、改善を図る必要がある。
公民館活動高齢者教育	高齢者対象：年間を通して高齢者教室を開	公民館で学び、活動する

事業名	現状・効果	課題
	<p>講した。中央公民館宇治鳳凰大学では 12 講座、参加延べ人数 3,859 人、宇治鳳凰大学大学祭には 400 人が参加した。地域の公民館高齢者教室ではそれぞれ 10 講座、参加延べ人数は 4 公民館合計で 5,108 人となった。</p> <p>成人対象：木幡公民館等では公民館サークル連絡協議会と協力して「おいじたくおもしろセミナー」、食生活改善推進員協議会「若葉の会」と共催して「減塩みそづくり講座」を開き、他の館も各種料理講習会等を実施し、新たな市民に公民館を利用してもらえるよう努力した。</p> <p>成果：その他、展覧会や演奏発表会の開催など、各公民館で活動するサークルの育成、支援も行った。公民館を拠点とした多くの市民が参加し、生きがいづくりや地域づくりを進めることができた。</p>	<p>人の固定化・高齢化が進んでいることから、今後も年齢を問わず、様々な市民が活動できるよう支援するとともに、地域貢献に取り組む人材が育成できるよう事業内容を工夫する必要がある。</p>
青少年健全育成推進 【青少年課】	22～23 ページ参照	
総合的な事業の展開		
高齢者活動事業	<p>本事業の中では「シルバーコーラスの集い」を開催している。平成 23 年度は、高齢者で構成される合唱団体が 14 団体（市内 9、市外 5）出演し、「宇治市少年少女合唱団」をゲストに迎えた。出演者・来場者合わせて約 1,300 人が集い、日頃の活動成果の発表と参加者同士の交流を行った。実行委員会で企画・運営を行い、当日の運営についても各出演団体が役割を分担して行った。</p> <p>出演団体数は 14 団体で、定数 15 団体に近い参加がある。京都府南部地域で練習や施設への激励・慰問などの活動を熱心に行っている高齢者中心の合唱団体に発表の場を提供することで、生きがいづくりが図れた。また、市・町の枠を超えた交流と、ゲスト団体である青少年との交流の機会となった。</p>	<p>事業開始から 10 年以上が経過し、出演団体が固定化している。</p> <p>また、当初の事業目的も一定達成されたことから、25 年度を事業の区切りとし、26 年度以降の事業のあり方や運営方法について検討を行う。</p>
子どもの居場所づくり 支援事業（公民館）	<p>遊び及び文化、スポーツなどの学習指導により、子ども達が学校や家庭では経験できな</p>	<p>今後はさらに内容を創意工夫し、子どもたちの二</p>

事業名	現状・効果	課題
	<p>い種々の体験をし、優しさやたくましさを育む活動や場所を提供・支援した。5 公民館で開催回数は 81 回、延べ 1,856 人が参加した。</p> <p>公民館サークルや地域住民の協力による様々な体験活動により、地域の人との触れ合いを通して子どもの健やかな成長を促すことができた。また、子どもと触れ合うことによって、高齢者や市民グループも経験や学びの成果を活用することができ、喜びを感じるとともに一層学びが深まることになった。</p>	<p>ーズに合わせ、各公民館の特徴ある事業内容を組み立て、魅力ある体験メニューを提供する等に努める。</p>
豊かな暮らしのための学習活動の推進		
<p>子どもの読書活動推進事業</p>	<p>「宇治市子どもの読書活動推進計画（第二次推進計画）」を平成 24 年 3 月に策定した。</p> <p>子どもの健やかな成長に資するため、地域において子どもが読書に親しむ機会の提供として、本のリサイクル市や読み聞かせ等を実施した。イベントでは、読書サークル「おはなしたまてばこ」と学校図書館司書による読み聞かせと本のリサイクル市を実施し、子どもや親子連れを中心に 100 人の参加があった。</p> <p>関係各課（施設）に対して「宇治市子ども読書の日」関連事業調査を実施し、結果をまとめ、各施設に冊子を配布した。</p> <p>各種取組を通じて、子どもが読書に親しむ機会を提供し、自主的な読書活動を推進することができた。</p>	<p>計画の周知徹底を図るとともに、子ども達の自主的な読書活動推進するため、各種イベント等の充実に努める。</p>
<p>各種生涯学習事業 【各課】</p>	<p>公民館を含む生涯学習課では、社会情勢と市民のニーズに応じて様々な分野の講座やイベント、スポーツ教室、各種競技大会を開催した。また、ジュニア文化賞等やスポーツ賞等の顕彰により市民の文化・スポーツ活動を奨励した。</p> <p>また、青少年センター（43～44 ページ参照）等では青少年の健全育成のための講座・イベント等も開催している。</p> <p>歴史資料館や源氏物語ミュージアムでは、展示や講座等を催して宇治の歴史・文化に関する学習機会を提供している。</p>	
<p>宇治の文化・資源を生かした学習活動の推進 【歴史資料館】</p>	<p>資料調査整理としては、旧家や社寺等が所蔵している古文書や民具等の資料を調査し、必要な資料の写真撮影を行った。また、当館</p>	<p>資料調査整理については、市民の歴史意識、地域に関する興味の持ち方が、</p>

事業名	現状・効果	課題
	<p>所蔵の資料の調査成果をまとめた「収蔵資料調査報告書」を刊行し、成果を広く公開した。</p> <p>資料収集保存に向けては、調査活動を実施し、収蔵資料調査報告書を刊行することにより、当市の歴史資料の調査、収集、保存に努めた。今後も継続的に調査を行うことにより、データの充実を図る。市民から古文書・古絵図・民具等の寄贈・寄託を受けたほか、宇治関係資料として地形図や観光案内パンフレット等を購入した。資料の購入及び資料の保存を適切に行った。今後も収蔵資料について、これまで同様、適切に保管していく。</p>	<p>比較的身近な年代に寄せられている。現代の市民生活の記録、画像や生活用具の調査が課題である。</p> <p>資料収集保存については、古書店などから目録のほかインターネットも活用し、作品を選定し、購入する。必要とする作品に関する幅広い情報の収集が課題である。</p>
<p>宇治の文化・資源を生かした学習活動の推進 【歴史まちづくり推進課】</p>	<p>史跡宇治川太閤堤跡を初めとした市内の文化財の保存・活用・整備を目指し、その適切な保存や記録作成だけでなく、啓発イベントや発掘調査報告会の開催等を通して、文化財の保護・活用に関する学習機会を提供した。</p>	<p>文化財の保存・活用のためには市民の理解と協力が不可欠であるため、より一層、情報提供や普及啓発を進めていく。</p>
<p>図書館資料提供事業 【図書館】</p>	<p>貸出状況：3館（中央、東宇治、西宇治） 合計の平成23年度末蔵書数305,793冊、延べ貸出者数207,859人、登録者数86,698人（市民登録率44.3%）。図書館以外の公共施設で予約した図書が受け取れる「予約図書配本サービス」は年々利用者が増えており、資料提供の方法として有効である。学校への団体貸出、地域文庫・家庭文庫11団体、笠取地区に団体貸出を行った。</p> <p>事業：各館で一般向けと児童向けの展示を実施。小学校・幼稚園等20校・園から図書館見学の受け入れ、中学校延べ7校から中学生の職場体験実習を受け入れた。</p> <p>貸出冊数は若干減少傾向にあるが、テーマを決めた図書の展示やおはなし会などの各種イベント、地域や学校等への図書の貸出等、読書や図書館に親しむ機会を作ることができた。</p>	<p>年間数万冊の新刊図書・資料が刊行される中で、限られた予算内で、幅広く最新の図書・資料を収集していくには、今まで以上に選書に時間が必要である。</p> <p>また、図書館資料の保管場所の確保について、検討が必要である。</p>
まちづくりにつながる学習活動の支援・市民協働の促進		
<p>青少年によるクリーン宇治運動</p>	<p>青少年が地域で美化活動を展開することで、社会の一員としての自覚や地域への愛着</p>	<p>参加者となる青少年団体の減少に対応する。</p>

事業名	現状・効果	課題
	心を養う。	
講座等終了者の活動支援	食育推進や環境保全などの市民・地域活動につながる講座終了後に、活動継続のための支援を行っている。講座がきっかけで、市民向け教養講座を10年以上提供し続けているグループもある。	活動者が固定化・高齢化し、活動継続が困難となるケースがでてきた。新たに既存活動へ加入する人材育成支援を検討していく。
事業評価の実施		
市民アンケートや事業評価の実施	<p>生涯学習に関する市民ニーズを把握するため、平成23年度は生涯学習に関する市政モニターアンケートを実施した。</p> <p>また、庁内の生涯学習の推進状況の把握と職員の意識啓発を兼ねて、生涯学習関連事業調査を毎年実施して各課で自己点検している。結果は生涯学習推進会議に報告するとともに、その後の事業展開に活用している。</p>	<p>生涯学習関連事業調査については、結果を事業に活用できるよう、調査の実施時期を検討すると共に、より正確な実態の把握に向けて内容を再精査する。</p>

3-4 「E.人材養成プラン」の現状、課題

(「平成 24 年度 宇治市の教育」「平成 23 年度 事務事業点検評価」から)

【取組の概況】

生涯学習実践者として活躍する人材を養成するため、様々な分野について個人・団体の人材を養成するとともに、ボランティア活動を支援している。図書館については、地域教育力の活用と学校図書館の活性化を図るため、市民や保護者を対象とした図書館ボランティアの養成講座（蔵書整理から読み聞かせなど）や、既に地域や学校にボランティアとして活動している市民に対する研修講座を開催している。NPO の活動については、本市初の総合型地域スポーツクラブである東宇治スポーツクラブ等を支援している。

また、優れた人材を発掘・登録・公開するとともに、市民が気軽に活用するための工夫として、「宇治市生涯学習人材バンク」を始めとした人材活用情報の収集・活用を行っている。現在（平成 25 年 3 月）人材バンクには約 140 件の登録があり、多彩な個人講師・グループの情報を提供している。

【今後の検討課題】

引き続き各分野で活躍する個人・団体の人材養成を図るとともに、人材バンクの登録件数の増加と利用促進への取組が必要となる。

【平成 23 年度事業の評価結果】 注：主な事業のみ。全事業評価は実施していない。

事業名	現状・効果	課題
学びを支える人づくりと活動支援		
各種活動にかかわる人材の養成と活動支援	支援を行っている育友会など社会教育団体から、新たに地域活動を展開する人材が育っている。また、前述の U-4 のように学習をきっかけとして活動開始した人材を支援している。NPO 法人の活動支援も行っている。	活動継続のための人材を引き続き育成していく必要がある。
人材活用システムの構築		
人材バンク事業	市内を中心に活動する個人講師やグループの情報を、ホームページや冊子版で公開している。冊子版は市内公共施設（幼稚園・小・中学校を含む）に設置している。 また、登録講師の技術向上と人材バンクの広報を目的として「市民講師学習講座」を開催した。平成 23 年度は前年度に引き続き、登録講師から企画を募集した。登録講師の技術向上と人材バンクの広報に努めることができた。登録講師数・新規登録者数共に、前年度より増加した。	より広報に努めると共に、利用実態を把握することにより、事業のさらなる充実に向けて検討する必要がある。

3-5 「0.組織プラン」の現状、課題

(「平成 24 年度 宇治市の教育」「平成 23 年度 事務事業点検評価」から)

【取組の概況】

生涯学習関連組織の連携を図るため、市民団体間のネットワーク作りを進めており、関係団体との連携支援や情報提供等を行っている。

行政の推進組織の整備としては、「生涯学習審議会」や「生涯学習推進会議」を開催して、総合的な生涯学習の振興を図っているほか、府や他市町との連携にも努めている。

また、本市は京都文教大学と包括的な連携協力に関する協定を結んで協働している。

【今後の検討課題】

自主的な市民の連絡組織の設置支援については、既存の活動の更なる活性化につなげるため、他組織と積極的に接触できるような場を提供していく必要がある。

行政の推進組織の整備については、生涯学習の進捗状況をより正確に把握するため、生涯学習関連事業調査の内容を再精査する。また、京都文教大学を始めとした大学ともより一層の連携を図る。

【平成 23 年度事業の評価結果】 注：主な事業のみ。全事業評価は実施していない。

事業名	現状・効果	課題
生涯学習関連組織の連携を図るための組織の整備		
自主的な市民の連絡組織の設置支援	公民館サークル連絡協議会やイベント出展者交流会などにより、市民団体間のネットワーク作りを進めている、また、地域体育振興会などの設立等に関わり、関係団体との連携支援や情報提供等を行っている。	団体活動の更なる活性化につなげるため、他組織と積極的に接触できるような場を提供していく。
行政の推進組織の整備		
生涯学習審議会、生涯学習推進会議の開催	「宇治市生涯学習審議会」を年 6 回開催して本市の生涯学習の振興について審議している。庁内では「生涯学習推進会議」を毎年開催して、生涯学習関連事業調査の結果報告（61 ページ参照）を元に、全庁的な生涯学習の推進を図っている。	生涯学習推進会議については、生涯学習の進捗状況をより正確に把握するため、生涯学習関連事業調査の内容を再精査する。
京都文教大学との連携	生涯学習センターでも事業協力や情報提供等を進めている。学生は学習情報誌の編集委員や映画上映実行委員会委員も務めている。フィールドリサーチオフィスや短大の地域連携室を窓口、講師紹介等も依頼している。公民館についても、連携を検討している。	引き続き連携を図っていくことが必要である。